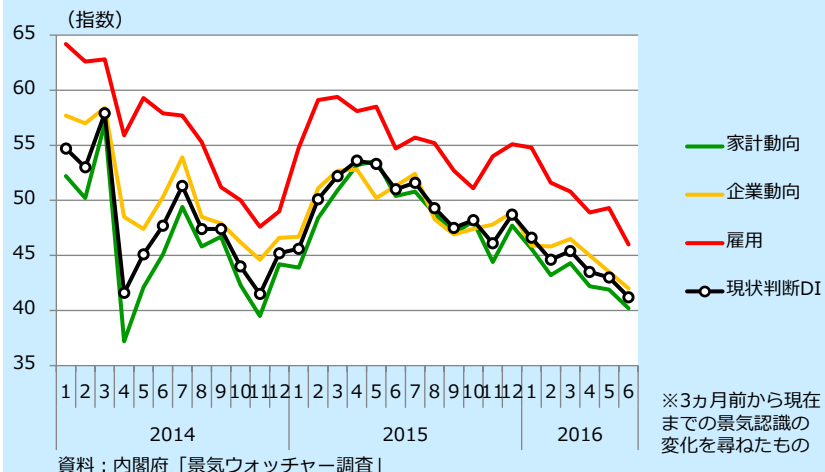


# 日本：マインド関連指標（2016年6月）

## －円高・英国のEU離脱問題による先行き不透明感で悪化－

*MRI Daily Economic Points*  
July 8, 2016

### 景気ウォッチャー調査

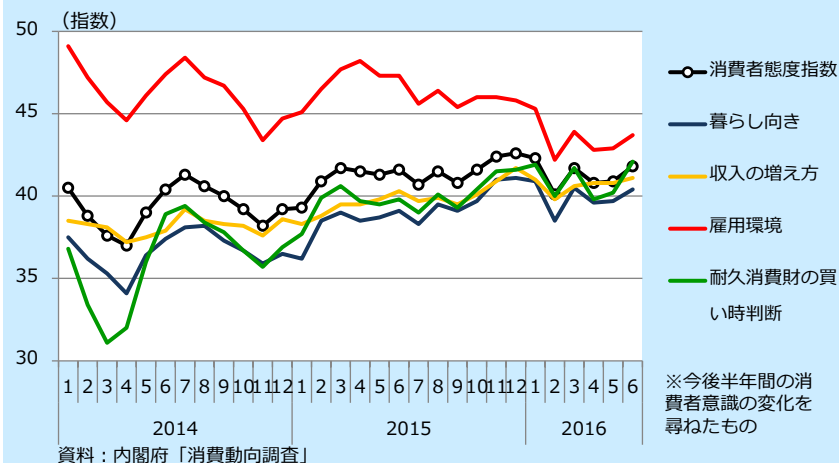


### 評価ポイント

#### 景気ウォッチャー調査

- 6月の景気の現状判断DI(3か月前からの景気認識の変化)は、前月から▲1.8p低下の41.2となり、3か月連続で低下した(7/8公表)。
- 内訳をみると、家計動向(▲1.7p)、企業動向(▲1.5p)、雇用(▲3.3p)のいずれも低下。家計動向の悪化は、サービス(▲1.9p)や小売(▲1.7p)の低下が主因。企業動向は、製造業(▲0.9p)、非製造業(▲2.4p)がともに低下した。
- 地域別では、熊本地震からの回復などもあり、九州(+0.2p)や中国(+0.7p)が上昇したものの、それ以外の地域は低下。特に東京の低下が▲5.8pと大きい。
- 景気判断に対する理由をみると、改善理由としては、気温上昇によるエアコン等の耐久消費財の好調などが指摘されている一方、悪化理由としては、個人の節約志向の明確化、円高による受注やインバウンド需要の減少、雇用条件のミスマッチによる人材不足などが挙げられている。
- 景気の先行き判断DI(2～3か月先までの変化)は41.5と、前月から▲5.8pと大きく低下し、景気判断の分かれ目となる50を11か月連続で下回った。判断理由をみると、円高進行や英国のEU離脱問題による先行き不透明感が低下の主因となっている。

### 消費動向調査



#### 消費動向調査

- 6月の消費者態度指数(今後半年間の消費者意識の変化)は、前月から+0.9p上昇の41.8となり、2か月連続で上昇した(7/1公表。ただし調査基準日は6/15のため、英国のEU離脱問題の影響は織り込まれていないとみられる)。
- 内訳をみると、全ての指数が上昇。耐久消費財の買い時判断は+1.9p上昇、雇用環境は+0.7pの上昇した一方、収入の増え方は+0.3pと上昇幅が小さかった。

#### 基調判断と今後の流れ

- 企業マインドは、年明け以降の円高進行などにより弱さがみられ、消費者のマインドも、節約志向の高まりから弱い状況にある。
- 先行きは、地震からの復興や猛暑による夏物商戦などへ期待もみられるが、英国のEU離脱問題や円高進行による先行き不透明感は強く、企業マインドは弱い状況が続くと予想される。消費者マインドは、企業活動の鈍化による残業代減少、収益悪化による賃上げペースの鈍化、株安などにより慎重化する恐れがある。